

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
義肢装具学		必修	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
浅野 克俊	C313	k.asano	金曜日 9:00~10:30		
授業の目的・概要	<p>【目的】作業療法士に必要な義肢装具に関する基礎知識を学習する。</p> <p>【概要】四肢の切断に対する義肢や装具に関する基礎的な知識（定義・分類・適応・適合判定など）を学ぶ。実際の義肢装具を提示して学習を進める。義肢装具にかかわる作業療法士の役割を確認する。なお、授業はすべて遠隔にて同時双方向型で行う</p>				
学習上の助言	切断、神経障害、骨折など臨床医学的な観点から解剖学、運動学を活用する。解剖学、運動学などの基礎医学、整形外科学などの臨床医学の復習をして受講すること。				
教科書	作業療法学全書 改訂第3版 第9巻 作業療法技術学1 義肢装具学 /著/編：古川 宏（日本作業療法士協会：監修）/ 協同医書出版社				
参考書	切断と義肢（第2版）/ 著：澤村誠志 / 医歯薬出版 リハビリテーション義肢装具学 / 編：清水順一、青木主税 / メジカルビュー 手のスプリントのすべて（第4版）/ 著：矢崎 潔 / 三輪書店				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	義肢と装具について簡潔に説明できる。			OT(2)	
②	義肢・装具を使用する方々の心理と生活を理解できる。			OT(2)	
③	義肢の種類、構成部品、目的、対象となる疾患と障害を説明できる。			OT(2)	
④	装具・スプリントの種類、目的、対象となる疾患と障害を説明できる。			OT(2)	
⑤	義肢・装具・スプリントにかかわる作業療法士の役割を説明できる。			OT(1)、(3)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	授業オリエンテーション、切断者へのまなざし	同時双方向型授業	授業内で視聴した動画に関するレポートの作成	1	
2	下肢切断のリハビリテーション（切断の原因と切断部位、切断者の状況など）	同時双方向型授業	授業内で視聴した動画に関するレポートの作成	1	
3	上肢切断のリハビリテーション（切断の原因と切断部位、切断者の状況など）	同時双方向型授業	授業内で視聴した動画に関するレポートの作成	1	
4	義足の種類と構成部品、装着と使用	同時双方向型授業	義肢と部品名のまとめのレポートの作成	1	
5	義手の種類と構成部品	同時双方向型授業	各種の義手の比較のレポートの作成	1	
6	義手の調整と使用（筋電義手を含む）	同時双方向型授業	義手の調整と使用のレポートの作成	1	
7	上腕義手のチェックアウト	同時双方向型授業	上腕義手検査表の記入	1	
8	前腕義手のチェックアウト	同時双方向型授業	前腕義手検査表の記入	1	
9	切断のリハビリテーションと作業療法士の役割	同時双方向型授業	教科書と配布資料のポイント復習	1	
10	装具とスプリントの違い、目的	同時双方向型授業	教科書と配布資料のポイントの復習	1	
11	体幹装具、下肢装具の種類と構成部品	同時双方向型授業	体幹・下肢装具のまとめのレポート	1	
12	上肢装具の種類と構成部品	同時双方向型授業	上肢装具とスプリントのまとめのレポート	1	
13	上肢装具の調整と使用	同時双方向型授業	上肢装具とスプリントのまとめのレポート	1	
14	装具・スプリントと作業療法士の役割についてグループ・ディスカッション	同時双方向型授業	ディスカッションの内容の整理	1	
15	義肢装具の展望	同時双方向型授業	テキスト、配布資料、レポートを復習して試験に備える。	3	
試	筆記試験				

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		60	40	0	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	30	10	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	10	10	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	10	0	0	0	0	20
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	10	10	0	0	0	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	筆記試験を通じて義肢や装具に関する基礎的な知識を確認する。 得点を総合評価の60%に換算する。				試験後に模範解答を提示し、解説をする。学生は教科書、レポート、配布資料を参照し要点を再確認する。
	②						
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①	✓	学習のポイント、講義で用いたビデオ、義肢・装具・スプリントに触れた体験について簡潔にレポートをまとめる。必要に応じて図を用いること。評価基準：各回のレポートの形式(20点)、内容(40点)、図表の活用(20点)、質問(10点)、意見(10点)として評価する。合算した点数を総合評価の40%に換算する。再提出の場合は、再提出後のレポートを評価する。				Teamsの課題機能を用いて採点する。研究室(C313)もしくはリモート機能を用いて個別に詳細の振り返りを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：◎浅野克俊</p> <p>Teamsを使用した同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限に使用できるインターネット環境を推奨します。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性があります。</p> <p>教員の実務経験：本科目の担当教員は10年以上の臨床業務経験がある。</p> <p>実践的授業の内容：テキストと併せて臨床における治療で得た知見に基づき作業療法に必要な基本的実技・知識を教授する</p>							